

「北風と太陽」という話を知っていますか。北風と太陽が力を競うためにどちらが旅人の服を脱がせることができるか試そうとします。北風は服を脱がそうと力強く吹きますが旅人はますます着てしまいます。一方太陽は温めてあげることで自然と旅人の服を脱がすことができます。あなたが太陽ならいいですが、北風であるならどうやって服を脱がせますか。北風が退ぞいて雲をのける・・・そうすれば太陽が出て太陽の力をかりることができるのです。正しいことをしようとする時に、思い通りにならないと本当はどうすればよいかわかっていても正しい方法を選べません。御言葉をきちんと使えば解決できるのですが、その御言葉を刃にしてしまうのです。「あなたの御言葉は、私の足のともしび、私の道の光です」（詩119：105）あなたの足を照らすのは「御言葉」です。けんかや感情的なことが起こると先が真っ暗になってしまうのです。「もうやめた」そうになってしまうのです。（申30：14）あなたのまわりであって口にきて心にあるのです。心にあることを発することによって自らのものになるのです。今の神のこばをまわりにある、御言葉を通して届けるのです。（申30：14～16）誤ってしまうのは口の決断です。だから御言葉を携えて歩みなさいといっているのです。あなたがその時その時どう決断するかは、あなたのまわりにある御言葉を口で発言するかしないかにかかっています。正しい決断ができるかできないかは、御言葉を選ぶか感情を選ぶかしかありません。神の御言葉はあなたの周りにいつもあってその細い御言葉はいつもあなたに語られています。それを選ぶかそうでないことばを選ぶかであなたの祝福は変わってきます。私たちが選ぶかどうかであり、聖書には私たちはそれを選ぶことができると書いてあります。選ぶのはあなたの決断です。「われわれに似るように創られた・・・」似るように創られたのは選ぶ決断が持てるか持てないかです。私たちは選ぶことも決断することもできますが、それを選ばないのです。感情のほうが元気だからです。それで北風を吹かせてしまうのですが、それをしてしまうと、その人はその方法では二度と服を脱がなくなってしまうのです。正論を正しく厳しく言うてしまうのです。「しかし、舌を制御することは、だれにもできません。それは少しもじっとしていない悪であり、死の毒に満ちています。」（ヤコ3：8）舌を制さなくてはいけないのですが、感情によって制することができないのです。しかしこれでは決して良い実は結べないのです。だから私たちのごく身近にある聞こえのよいことばではなく、あなたにとってプラスになることば（御言葉）を選ばなくてはいけないのです。感情的なことばを御言葉で制して語れば正しいことばで伝えられるのです。隣人を自分のように愛するのです。あなたが蒔いた種は良い地になるから良い実になるのです。しかし自分を守ろうとして語ることばはうまくいきません。私たちはそういうとき「イエス様ならどうするか」を考えなくてははいけません。人（相手）とたたかうのではなく自分とたたかわなくてははいけません。そして勝つ方法は「自分の感情に負ける」ことです。イエス様は肉の体を帯び、弱さを知らない方ではありませんでした。だから私たちに同情できない方ではありません。でもその時に、どういきるのかを、肉に勝つ姿を通して私たちに示したのです。私たちは日々葛藤しています。そんなとき、イエス様に目を向ければ必ず解決できるのです。①御言葉の光の中に！！私たちは雲行きがあやしくなるとすぐに隠れてしまいます。しかし、そんなときでも雲の薄い太陽のある場所があります。御言葉の光の中に入ってください。あなたには必ず神様が輝いているのです。どんな状況にあろうともそこに帰るのです。神様は御言葉の助けの手を差し伸べています。それをつかむかどうかはあなた次第です。②希望を携える。どんな状況にあっても仕方がないということはありません。だからあなたが希望を持っていればよいのです。「こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」（Iコリ13：13）私たちはどんなことも人と接して物事が進んでいます。だから私たちが傷つき疲れるのは、必ず「人」とです。だから私たちは愛をもってその人に希望を与えてあげなくてははいけません。あなたは希望を携えていますか。苦しんでいる人の希望になっていますか。相手の希望になっているかどうかが大切です。「私は決勝点がどこかわからないような走り方はしていません。」（Iコリ9：26）パウロは決勝点を得ようと努力して走っていると言いました。あなたはどこに向かって走っていますか。ゴールがわかっているからがんばれるのです。ゴールはあなたの周りの人のあなたに対する希望です。「人々のために助ける人になりたい」「感謝される人になりたい」・・・結果、人々の希望になれる生き方なのです。（Iペテ3：12～15）「むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。」（15）あんな人になりたいとせひなってください。③希望を本当にゆだねよ。人に希望を与えることも、自分が希望を持ち続けることも自分ではできません。だからこそ神様にゆだねなくてははいけません。（箴言16：1～9）「人は心に自分の道を思い巡らす。しかし、その人の歩みを確かなものにするのは主である。」（9）あなたが計画をもったら光の中の御言葉と一緒に進んで、人々に希望を与え、その希望をあなた自身ではなく神様にもってもらうのです。神様はすべてを働かせて益とするといわれています。どんなことも益となるのです。イエス様は、本当は全ての人々のところに行きたかったはずですが。しかし、私たちに、そのことをゆだねてくださいました。そして十字架の道でどう歩むべきかを語られたのです。イエス様は十字架であなたに希望を伝え、そしてあなたにバトンをつなぎました。たとえ転んでも走りぬぐ力を与えてくれるのが神様です。神様はいつも私たちとともにいてくださいます。そんな神様と共に人々に希望を与えていきましょう。（要約者：岩崎祥誉）